

週刊 **タバコの正体**



Club Sunstar サイトから

たばこの葉を乾燥し細かくしたものを燃やして出る煙を吸い込むのが“タバコ”です。この煙は喫煙者本人だけではなく、周辺に広がり関係ない人までも、その煙を吸い込んでしまう受動喫煙被害が問題になっています。そこで近年、燃やさない“加熱式タバコ”が普及してきています。

グラフにあるように、火を使う紙巻タバコの販売数は年々減少していますが、加熱式タバコは増加し、令和4年度には紙巻タバコの半分にまで増えています。

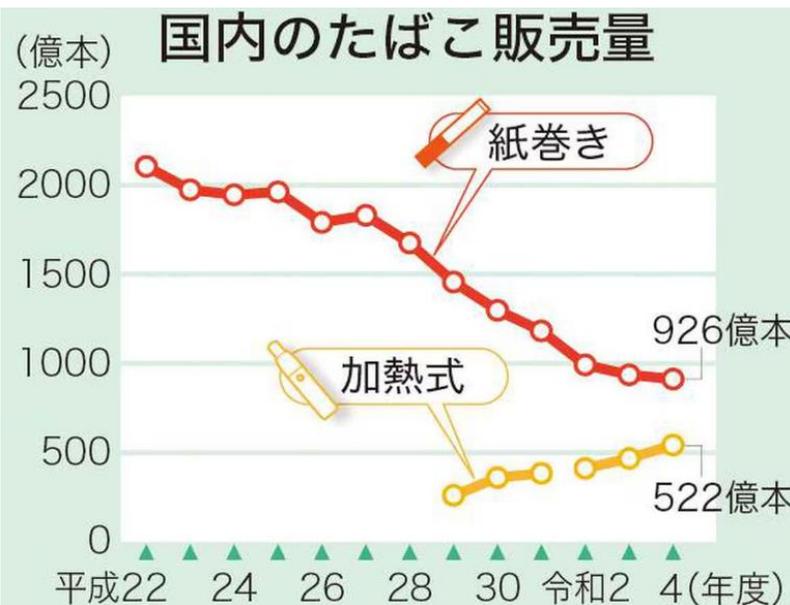
加熱式は、燃やさないので煙は出ませんが、ニコチンを含んだ白い水蒸気のような気体が出ます。その量は明らかに紙巻より少ないので、周りに広がる程度はかなり小さく、ニオイも少なく済みます。

ニコチン依存症の喫煙者にとっては、周りに煙やニオイをまき散らさずタバコが吸えるのは好都合ですよね。

燃やさないし煙が少ないので、「なんとなく身体に優しい」印象を持ててしまっていますが、左表を見てください。紙巻に比べ、有害成分の含有量は若干少ないのですが、健康被害に差がでるほど少なくはありません。つまり、有害なタバコである事にはかわりないのです。

決して「加熱式だから吸ってもイイ」なんて思わないでください。

産業デザイン科 奥田 恭久



※日本たばこ協会調べ（加熱式の平成29～令和元年は財務省集計、販売数量については1箱20本換算）

産経新聞 ライフ サイトから

有害成分	加熱式たばこ (μg)	紙巻たばこ (μg)	比率 (%)
ニコチン	301	361	84
ホルムアルデヒド	3.2	4.3	74
アクロレイン	0.9	1.1	82
ベンズアルデヒド	1.2	2.4	50

出典: Auer R, et al.: JAMA Intern Med. 177(7):1050-1052, 2017

毎日が発見 サイトから